

ワーファリン服用患者におけるビタミンK回避のための適正行動の支援 ～目で見て納得できる情報提供の試み～

にいがた調剤薬局 医学町 / 笹原 まゆみ 内山 美希子 大石 美也

【目的】ワーファリン(以下WF)服用患者への食物相互作用の服薬指導は、ビタミンK(以下VK)摂取制限のため、納豆とクロレラを禁止するのが一般的である。しかし、医師から山菜の摂取を禁止または制限するよう指導がされる場合や、特定の食品を過度に避ける患者もいるが、これに対して薬剤師は曖昧な知識のまま患者に対応しているのが現状ではないかと感じている。このようにWFと食物の相互作用に疑問が生じた場合に、それを解消するための情報や、ツールが乏しいと感じていた。そこで、当社薬剤師にアンケート調査を実施し、その結果を踏まえ食品中のVK量を数値で示すだけでなく、視覚的に示す写真を用いた情報提供書の作成を試みた。

【方法】1.当社薬剤師88名を対象に 薬剤師が行っているWF服用者への食物相互作用の指導 薬剤師が考える患者の食物相互作用に対する認識 薬剤師が考える情報提供に必要な内容とツールについてアンケートを行い有用な情報提供のために必要な内容を検討する。2.上記調査の結果をふまえ、選択した食品100gの写真を撮影し、さらにVK含有量を示し、解説も記載した目で見て比較できる情報提供書を作成。

【結果】薬剤師を対象とした調査から、ブロッコリーは特にVK含量が多い、納豆菌のVK産生を知らない、山菜はVKが多いなど23%の薬剤師に指導の勘違いがあった。また、既存の情報提供ツール以外に情報が欲しいと感じている薬剤師は26%であった。また、薬剤師が考える「患者が避けている食品」では、頻度の高い順から納豆・クロレラ・ワラビ・ほうれん草・ゼンマイ・青汁・ブロッコリー・ごごみ・やまいもなどが上げられた。裏づけ調査から、意外にもクロレラ・青汁はVK含量が低い商品も認められた。また、同項目で乳酸菌製剤の影響についての疑問も散見され、調査の結果、VK産生能を納豆菌と同等に考える必要はないと考えるが、トロンボ値の安定した状態で継続的にこれらを摂取した場合、トロンボ値が変動しないとは言い切れない。また、野菜をまったく食べない、また食品に神経質すぎる、バファリン等名称がWFと似ていたり薬効が似ている薬剤との混同が患者の認識の問題点として上げられた。

【考察】山菜は患者も薬剤師も摂取に注意が必要であると考えている場合がある。また、クロレラ、青汁は、メーカーによる原料の違い、また原料の採取時期によってビタミンK含量にばらつきがあるが、意外にビタミンK含量は少ない。しかし、栄養上必須な食品ではないので摂取を禁止することが適当である。乳酸菌製剤は、トロンボテスト値の変動の事例も上がってきたことから、この影響の機序を解説し、患者の理解を図る必要がある。これらの結果から「目でみる情報提供書」を作成した。さらに今後、作成した情報提供書を用いて患者の認識の実態調査を行い、このツールの有用性を示したいと考えている。

